

『金木犀』 作…ポチ子

日向 「金木犀って知ってる？」

翔太 「うん、知ってるけど。」

日向 「私、見たことないんだよね。金木犀。というか、金木犀ってどんなの？全然思いつかないんだけど。」

翔太、スマホの画面を見せる。

翔太 「これ、金木犀。」

日向 「んー、やっぱり見たことないかも。」

翔太 「庭とかによく植えられてるけど。」

日向 「ふーん、やっぱり分かんないなー。」

翔太 「俺は、隣の家の庭に植えてあった。」

日向 「綺麗？」

翔太 「あんま花とか見ないから分かんねーな。まあ、綺麗なんじゃないか？」

日向 「えー、何その感想。」

翔太 「そんな、人の家に植えてるもの、じっと見ないいつーの。」

日向 「・・・なんか、悔しい。」

翔太 「なんで？」

翔太、不思議そうに笑う。

日向 「だって、金木犀が歌詞に入ってる歌って意外とない？そういう曲を聴いたとき、私の頭にはただ曲が流れるだけだけど、翔太の頭にはきちんと金木犀が浮かぶわけじゃない。私も金木犀を知ってたら、きっと綺麗な花を思い浮かべれるんだろうなと思うと、ちょっと負けた気分になる。」

翔太 「なんだよ、それ。」

日向 「なに、笑ってんのよ。」

翔太 「負けず嫌いすぎるだろ、頭に思い浮かばなくらいで悔しいって。」

日向 「うるさいな。悔しいものは悔しいの！」

翔太 「はは。んじゃ、今から買いに行くか。」

日向 「え、金木犀を？」

翔太 「うん。なんか調べてみたら金木犀って育てやすいらしい。鉢植えでも育つんだってよ。」

日向 「うーん・・・買っちゃう？」

翔太 「お前の母さん、びっくりするだろうな。娘が帰ってきたと

思ったら、金木犀の鉢植え持ってんだもん。想像しただけで、すげー笑える。」

日向 「まあ、大丈夫。お母さん、植物好きだし。金木犀買ったなら、家まで運ぶの手伝ってね。」

翔太 「はいはい。」

— 終わり —